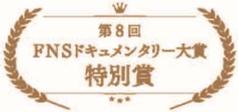
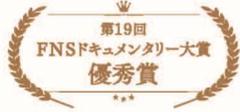
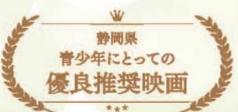


チケット
発売中

あいち国際女性映画祭2019で上映します！

橋本真理子監督 来場予定！



ドキュメンタリー映画

イーちゃんの 白い杖 つえ



全盲の姉と、重度障がいの弟。

私たちはなぜ生まれてきたのか。



20年間の心の記録。想像を超える絆にあなたは思わず涙する

語り：春風亭昇太 監督：橋本真理子 音楽：川口カズヒコ(DATSUN320)

撮影：杉本真弓 編集：大澤裕也 効果：山川英夫 デザイン：森部道子 配給協力：浜松市民映画館 プロデューサー：永井 学 制作・配給：テレビ静岡

2018/日本/108分/DCP/ドキュメンタリー ©テレビ静岡 HP <http://www.sut-tv.com/ichan/> 自主上映会 募集中



感動のTVドキュメンタリーをついに映画化!



互いの顔を見たことがない
姉と弟、支える家族。
20年目に出した答えとは――。

STORY

小長谷唯織さん・イーちゃんは20年前、静岡盲学校で白い杖の使い方や点字など視覚障がい者として生きる基本を学んでいた。目の見えない世界は想像を超える発見がある。だが徐々に「なぜ自分だけ違うのか」不思議に思うようになった。そして保育園とは違い、友達がいなくて寂しさを実感する。障がいを持った者同士分かり合えると信じ、イーちゃんは中学から東京の盲学校へ。だが、そこで経験したのは**はじめ**。大好きなピアノで気持ちを整理しようとするが、追いつかなかった。「現実から逃げないでほしい」と厳しく接する母。ピアニスト、歌手、作家…夢も破れ、何もかも嫌になった。「学校にいても家にも辛い」「死にたい」とも考えた。でも、そばにはいつも2歳下の弟・息吹がいた。重度の障がいでは、食事も歩く事もトイレにも行けない弟。入退院を繰り返し、手術を何度経験しても前に進む弟。イーちゃんは**自分の甘さ**に気づき、自殺を踏み止まる。障がい者が生き、働く。壁はいくつも乗り越えなければならぬ―しかし、その強さがあれば、幸せは必ずやってくる。



唯織と息吹 この出会いが、私を変えました

監督 橋本真理子

障がい者にカメラを向けることが難しかった20年前。盲学校100周年のニュース取材中、目の前を駆け抜けたのがイーちゃんです。「この子は感性が違う」と直感し、同時に弟が重度の障がい児だと知ります。本当は1回目の番組で終わるはずでした。でも唯織と息吹はこの先どう生きていくのか…心配でした。2人に出会ってドキュメンタリーの醍醐味を知り、大切さを教えられました。そして、病のため、中途障がい者になった父の看病で疲れ果てていた私を、この家族は支えてくれました。

障がい児教育・医療的ケアが必要な子供たちの教育、障がい者雇用、旧優生保護法。この20年で新たな課題も浮き彫りとなり、何が解決したのか答えに苦しむのが現状です。

更に2016年、神奈川県で重度障がい者を狙った殺人事件が発生、許せませんでした。人は年をとれば目も悪くなり、歩くのも億劫になる…誰もが、障がい者になると私は思います。唯織も息吹も少し早かっただけ。2人が生きやすい社会は私たち自身が生きやすい社会になるはず。障がいがあるうがなかるうが、誰にも生まれてきた意味がある―この思いを伝えたくて映画にしました。

(制作番組 受賞歴)

2001年「こちら用務員室―教育現場の忘れ物―」第10回FNSドキュメンタリー大賞 グランプリ
2007年「草紙一父が囃したイチゴ」第23回農業ジャーナリスト賞 特別賞
2012年「いのちの乳房―再臨に挑んだ女神たち―」第64回科学技術映像祭 文部科学大臣賞
第50回ギャラクシー賞 奨励賞



9月6日(金) 10:00～ ウィルあいち3階大会議室

9月7日(土) 13:30～ 弥富市総合社会教育センター にて上映

※詳しくは映画祭パンフレット又は映画祭公式ホームページをご覧ください

〈問合せ先〉あいち国際女性映画祭事務局

TEL:052-962-2520

9:00～17:00(映画祭開催中は21:00まで)
休日:月曜・祝日 ※月曜が祝日の場合は翌日も休日
公益財団法人あいち男女共同参画財団 企画協働課内
〒461-0016 愛知県名古屋市東区上堅杉町1番地

〈弥富市総合社会教育センターでの上映に関する問合せ先〉

弥富市秘書広報課 0567-65-1111

映画祭公式ホームページ

<https://www.aiwff.com>

